

4章 保育の3つの工夫

環境の工夫（アイデアのたね）～子どもと共に～

子どもと保育者が互いのアイデアを活かして共に作り出す環境の工夫

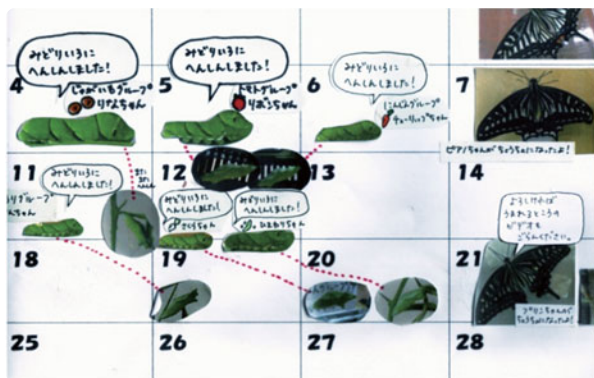
「科学する心」を育むには、子どもと共に作り出す環境の工夫が大切です。子どもの目線に立ち、興味・関心に寄り添って自分たちで遊びを展開する環境とは？ 各園の環境の工夫をご紹介します。

「アゲハカレンダー」～子どもの気づきを可視化して～

墨田区立立花幼稚園（東京都）

保育者の工夫

たくさん飼っているアゲハの幼虫。どの幼虫がいつ羽化したのか？を記入したことをきっかけに、蝶の写真を貼り、幼虫の変化なども記入した。更に、子どもの気づき・発見を記入した。



子どもの姿

- ・毎日何か変化はないか期待感たっぷり、より成長の過程に興味を湧いたり、疑問を感じたりしていた。
- ・さなぎになってから約10日の期間を経て羽化するという事実を自分たちの目で確かめることで、予想通りになったことに驚いたり不思議がったりする。
- ・自分が感じた驚きや不思議と感じる気持ち、期待を友達、保育者、保護者などに伝えるようになった。
- ・幼虫の成長過程や羽化の感動を共有する。

ポイント

アゲハの成長と共に、子どもたちの気づき・発見を誰もが見て分かるようにしたことが、「アゲハがいつ羽化するのか？」という子どもたちの期待感をより高めました。そのことにより観察を続け予想して、期待通りに羽化する瞬間に出会えるという感動体験に繋がっています。

いい泥団子を作るには？～情報を共有する～

社会福祉法人慈育会 若葉台保育園（福島県）

保育者の工夫

いい泥団子を作るための子どもたちの情報を誰もが自由に見ることのできる場所に掲示し、さらに、子どもたちがそこに情報を加えていけるようにした。また、保護者から提供された情報も、子どもにもわかるようにして加え、子どもと保育者と保護者が情報を共有できる場にしていった。



子どもたちの泥だんご情報



保護者からの泥だんご情報

ポイント

子どもたちの思いや目的を活かし、子どもと保育者とが一緒に作り上げていく環境は、園内の子どもたちや保育者間はもちろん、保護者にも伝えることのできる情報になっています。そして、保護者からも返ってくる情報が同じ場にあることで、園生活と家庭生活が連続している環境の工夫になります。子どもたちの疑問や葛藤、探求により、体験の質が向上し、「科学する心」の成長を感じることが出来ます。